

居宅介護支援事業所から地域へ

ソーシャルワークと多文化共生

一般社団法人Moment

代表理事 金順愛

ケアマネジャーとは

- 2000年介護保険制度開始とともにつくられた資格
 - 介護が必要となった人を対象としたケアマネジメント全般を担う人 * 直接介護をするのではなく、事業者・社会資源を繋ぐ人
(介護支援専門員＝ケアマネジャ)
- ★最初の資格要件者の多くが薬剤師だった。

NPO法人コリアンネットあいちの 居宅介護支援事業所ファニー

- 2005年7月1日～2021年3月31日
- 150名ほどの在日コリアン高齢者たちのケアマネジメントを担ってきた。
- そのほとんどが、法人が運営するデイサービスセンターいこいのマダンの利用者だった。
* 減算へのジレンマ

コリアンネットあいちの中での18年

- 事務局長として、「社会貢献」としての助成金申請と活動展開をする過程で気づいた事
- 社会福祉士となり、気づいた事
- ケアマネの資格取得の理由



独立の道を選ぶ

- 一般社団法人Moment 設立 2021.2.3.
- 居宅介護支援事業所ケアプランモーメント



一般社団法人Moment 定款より

私たちは、介護や支援を必要とされる人々とともにあり、ひとりひとりの尊厳を守り、人間相互の多様性を尊重する差別のない真の共生社会を構築していくことを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行います。

代表理事 金順愛

○介護保険制度に基づく居宅介護支援事業

○生活の相談および支援を目的とする事業

○当法人の目的に賛同する個人や団体と連携し、より良い共生社会の実現、推進するための事業

6か月間振り返る

- 地域包括支援センターとの連携の中で
- 新規12名中8名が日本、1名フィリピン、1名韓国ルーツの高齢者

ケアマネジャーとして
コリアンソーシャルワーカーとして
フラットな自分を実感している

在日コリアン1世高齢者(要介護4)の事例から

- 私は職業に貴賤はないという言葉を実感だと思っています。それは私自身が在日朝鮮(韓国)人として生まれ、家業が“ボロ”(古着の廃品回収加工業)であり、そのような劣悪な労働環境の中でも、私たち兄弟を立派に育て上げてくださった父母を、そして同じような在日朝鮮(韓国)人同胞をたくさん見てきたからだと思います。しかし一方で“差別に殺された”同胞たちの姿ももっと多く見えました。私の叔父たちの人生は、まさに“差別に殺された”ものでしたし...
- 私は差別を憎みます。女性差別、障害者差別、部落差別、民族差別、外国人差別、貧困差別... 異常としか言いようがない社会であり、政治ですね。
- しかし、同じ労働をする人の中には、明らかに“貴”と“賤”があります。

地域包括支援センターとの 連携事例から

地域包括支援センター4つの業務

介護予防ケアマネジメント

要介護にならないように
介護予防支援を行う



総合相談

必要なサービスや制度を紹介



権利擁護

成年後見制度活用をサポートや
虐待防止への取り組み



包括的・継続的ケアマネジメント

地域ケア会議の開催やケアマネ支援など



孤独死を防げなかった振り返りの ケース会議のこと

ご報告 2021.10.20 発信

ケアプランモーメント第一号の利用者さんが入院し、ご自宅でその方の帰りを待って今姪御さんが孤独死をされていて、1か月間発見できなかった。孤独死を防ぐためにはどうしたら良かったか。とのテーマで、いきいき支援センターが振り返りの会議を企画。保健師を目指す大学の研修生も参加。

- 医療、障害者基幹センター、精神保健センターとの連携
- キーボックスの設置
- ご近所さんとの連携
- 「もしかしたら」を考え行動する事
- いずれにしても、本人の「同意」がないままは動けない状況の中で、現実的には難しい事ですが、亡くなった姪御さんの死が教えてくれた事を活かしていこうと話しあえた大切な場でした。

フィリピンルーツの高齢者への 支援事例から

ひとくちめも31 2021.6.20.発信

- フィリピン出身の方とのケアプランを完成させるために、外国人ヘルプライン東海の友人にタガログ語通訳で同行してもらいました。外国人高齢者橋渡しプロジェクトが愛知県の委託を受けてつくった介護保険制度についてのパンフレット(タガログ語)も持参して。
- ご本人の強い自立心とプライドをしっかりと知ることが出来、ケアプラン案は数か所修正しました。また、日本語の「支援する」という言葉が訳しにくい事、主語と目的語が曖昧な表現に、通訳しにくさを指摘され、大変参考になりました。
- これから、外国にルーツを持つ、日本語が苦手な高齢者たちへの「支援」の「カタチ」を志をともにするメンバーたちと創っていきたいと思います！

支援協働者たちへの発信から 見えて来るもの

- 労働というものの普遍性
- チームワークの普遍性
- 「情」の表現の差
- 発言の仕方の差
- 多文化共生・地域共生の実践

これからどんな提言が出来るか

★名前のはなし

- 主任はなぜ通名にしたか
- 高齢者のみなさんの私への反応

傷つけられる事を常に意識している現実

社会がそれに気づく事

多文化共生、地域共生社会づくりの根幹？

マイクロアグレッション概念の導入で 救われる

人権と生活52号「レイシズムとしての在日朝鮮人
差別」

寄稿「マイクロアグレッションの視点から考える在
日朝鮮人差別」朴利明

- マイクロアグレッションとは、アメリカで1970年代に精神科医のチェスター・M・ピアースが提唱した概念。...より曖昧かつ狡猾に、意識的次元からより**無意識的次元で現代のレイシズムが進行している事**を明らかにした。
- マイクロアグレッション概念の導入は、在日朝鮮人を含むマイノリティにとっては、日常の中で起こる差別とは定義しにくいが心に「もやもや」を残す事象に名前を与えてくれる。気にし過ぎと無価値化され自己疑念に駆られることから解き放ち、マイノリティとして生きる自分のリアリティに対する信頼の回復、それに対してのナラティブの構築へと導いてくれる。

- ...コミュニティ内部にある差異を無視したり無価値化してしまう事でさらなる疎外が生じる時それはより痛切な経験ともなりうる。
- コミュニティ内部で起きている抑圧について可視化し、話し合えるためのツールとしてもマイクロアグレッションという概念には有用性があるかもしれない。

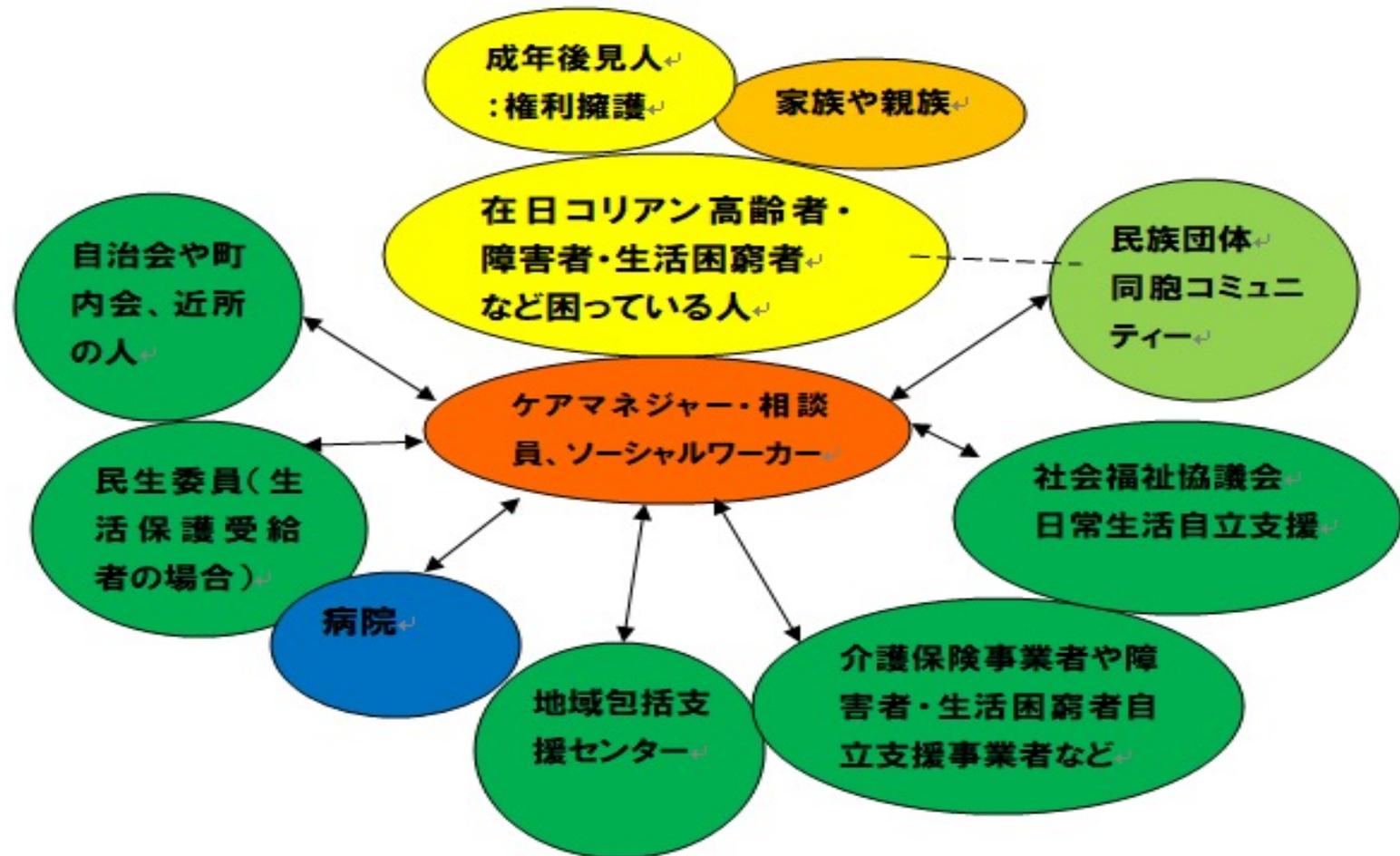
- 差別の問題は「普遍的な課題」であることに、より多くの人たちが気づく事が大事なのではないか。
- あらためてみえてくるものがある

2014年7月に改訂されたソーシャルワークのグローバル定義

- ソーシャルワークの大原則は、**人間の内在的価値と尊厳の尊重、危害を加えない事、多様性の尊重、人権と社会正義の支持**である。ソーシャルワークの専門職は、**人権と集団的責任**が共存することを認識する。ソーシャルワークの主な焦点は、あらゆるレベルにおいて人々の権利を主張する事、人々が互いのウェルビーイングに責任をもち、人と人の間、環境の間の相互依存を認識し尊重することを促すことにある。

- ソーシャルワークの正当性と任務は、人々がその環境と相互作用する接点への介入にある。「人々のために」ではなく「人々とともに」働くという考え方をとる。
- ソーシャルワークの戦略は、抑圧的な権力や不正義の構造的な原因と対決しそれに挑戦するために、人々の希望、自尊心、創造的力を増大させることを目指すものである。その全体性を目指す事は普遍的であるが、時代や国によって歴史的、政治的、文化的、社会経済的条件により多様である。

暮らしを支えるイメージ 民族団体も「社会資源」として



「多文化共生社会・地域共生社会」の
軸を立てる役割が出来ればと思います

